

コロナに負けず体育大会

唐津・厳木中「密集」避け工夫

唐津市立厳木中学校
(古館洋治校長、生徒92人)で31日、第74回体育大会が開かれた。新型コロナウイルスの感染防止策を講じなが

新型「コロナ対策で最後まで1対1で引き合うルールに変更された「棒ひきわっしょい」



ら、生徒たちは元気いっぱいグラウンドを走り、応援の声を響かせた。3年生の洵上琥生・実行委員長(15)は「3年生を手本に下級生も大きな声が出ていて、予定通りやってよかった。コロナに勝った感じがする」と満足していた。

市教育委員会によると、市立18中学校のうち9校が5月の体育大会を計画していたが、厳木中を除く8校は秋

に延期するなど見送った。厳木中は「秋にできるか分からないし、受験を控える3年生の負担を考えると予定通り5月にした方がよい」(重明美PTA会長)と地域の理解を得て、応援を保護者のみに限定して開催。家族らが密接する昼食は避けて午前中だけのプログラムとした。

伝統の赤団、青団の2チームに分かれての入場行進は時間を短

縮。綱引きやソーラン踊りなどは取りやめて、種目を半分ほどにし、複数の選手が加勢していた「棒ひきわっしょい」は1対1のルールに変更するなど、「密集」を避ける工夫を凝らした。

閉会式で、古館校長は地域住民の参加自粛への協力に感謝し「子供たちには不自由な思いをさせたが、立派な大会になった」と講評した。

毎日新聞 6/1より抜粋